

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0271301104		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームしろがね		
所在地	青森県八戸市大字白銀町字田端6-1		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個別外出が昨年度より増えています。 また、個別の運動にも力を入れており、車椅子の方でも、本人の意欲があれば、意向に沿えるように支援をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>全職員で話し合って更新した理念「私たちは思いやりをもって、こちよく、地域に愛され安心して暮らせるグループホームを目指します。」を基に、日々のケアに取り組んでおり、要望を聞きながら個別に外出を実施する等、利用者の意向を大切に支援している。 ホームは住宅地に立地しており、町内会長や地域住民の協力や得て運動会や納涼祭に参加したり、ホームの避難訓練に参加していただく等、ホームは地域に理解され、良好な関係が構築されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し、全スタッフが理念を踏まえて仕事に取り組むようにしています。	地域密着型サービスについて全職員で話し合いを持ち、「私たちは思いやりをもって、こちよく、地域に愛され安心して暮らせるグループホームを目指します。」というホーム独自の理念を掲げている。職員は理念を振り返りながら実践に向けて取り組んでおり、地域との交流も深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームで行うレクリエーションへ参加していただき、また、こちらから町内の行事へ積極的に参加することで、交流を持っています。	納涼祭や運動会等の地域行事への参加の他、健康に過ごす運動等の出張講習を開催する等、地域住民との様々な交流に努めている。また、散歩の際に地域住民と挨拶を交わしたり、庭に咲いたお花を持って来ていただく等、ホームは地域住民に理解され、日頃から交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	協力病院から専門の先生による勉強会を開催しました。地域の方々への回覧と呼びかけで、参加されていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状だけではなく、現在の町内の状況も話題にあがり、情報を共有できています。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、行事や研修等のホームの取り組みを報告している。町内会長や民生委員、家族、市の担当者等、それぞれの立場で質問や意見交換を行い、町内の高齢者の情報についても共有している。また、出された意見はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関して分からない事は連絡させていただき、丁寧な返答をいつもいただいています。また、避難訓練も運営推進会議の際に見てもらいました。	運営推進会議への参加を得ており、自己評価及び外部評価結果やホームの現状を報告している。また、生活保護や看取り介護についてアドバイスをいただいたり、避難訓練を見ていただく等、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部の勉強会へ参加し、情報を共有して、理解を深めるよう取り組んでいます。	職員は学習会等で理解を深め、身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。1階の玄関に施錠はしていないが、2階は階段の危険性等から施錠しており、家族の同意を得ている。また、外出傾向の利用者には、散歩や話をしながら一緒に行動し、気分転換を図って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会へ参加し、日頃の業務でも細心の注意を払い、全スタッフで防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフの理解までには至っておらず、今後も研修参加と、情報の共有、理解を深めていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改正時にも説明しています。また、誤解のないように、翌月にも再度説明をするよう注意しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への連絡は担当者やケアマネ、ホーム長を中心に行っています。必要な場合はスタッフ会議や運営推進会議でも話すようにしています。	面会時に家族に声がけして、気づいた事や要望を聞くようにしている他、年4回発行するホーム便り「いきいき通信」では、行事や運営推進会議での内容を報告している。また、毎月の便りでも利用者の健康状態や日常生活の様子を記載し、利用者のホームでの暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談以外でも普段から相談を受けており、会議を活用する等して、話ができる場、時間を設けるようにしています。	月1回、職員会議を行い、業務内容や勉強会等について、職員は意見を出し合っている。また、年2回の個人面談の機会を設け、要望や困っている事、今後の方向性等について職員の話聞きながら、反映できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の際に個人の目標を評価してもらい、今後の目標を立ててもらっています。また、改善してもらいたい点も伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別のスキルに合わせて研修へ参加し、新人の方には基本技術を学んでいただいています。研修の後は会議の場で報告し、OJTを行うことで周知するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部、外部共に交流する機会があり、積極的に参加することで、コミュニケーションをとることができています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始される段階で、本人の要望や不安な事へ耳を傾け、スタッフやケアマネ、管理者と情報を共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の段階で、家族の要望や不安な事を情報共有し、家族が納得していただけるように、早めの対応を心がけ、面会時には積極的にこちらから会話するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長やケアマネを中心とし、必要な支援かどうかを見極め、検討し、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや意思を尊重し、残された能力を活かせるようなケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも、近況を電話やお手紙で報告させていただいています。レクリエーションへの参加も、積極的に声をかけさせていただき、本人との関係が途切れないよう支援させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーションの際に本人の行きたい所へ行ったり、レクリエーション以外でも馴染みの所に行き、関係を保てるよう支援しています。	親戚や知人の来訪や電話の取り次ぎ等、これまでの交流を継続できるように支援している。自宅や畑の草が気になる方には姪御さんと連絡を取って話をさせていただいたり、お墓参りや誕生日に実家に行く等、家族とも連携しながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席が決まっても、会話が弾んでいる方同士を隣同士にして、食事をしていただく等、形にこだわらずに、良い関係が持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されていても、こちらから情報を提供させていただいたり、様々な声をかけさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中や家族の面会時等の際に情報収集し、なるべく本人の希望に沿えるようにしています。困難な場合は家族の情報を基に、本人の様子を見て判断します。	利用者一人ひとりの思いや希望を把握するために、家族等から協力を得ている他、職員は利用者に声がけをして、話を聞きながら、どのように過ごしたいのか利用者の意向を確かめ、日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報以外でも、本人と家族との会話の中から細かな情報を得ることで、把握するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの際に、バイタルや本人の心身状態をしっかりと情報共有し、記録に残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、カンファレンスを行っています。それ以外でも本人の様子に変化があった場合は、スタッフ、ケアマネで家族と情報を共有し、ケアの仕方を考えています。	家族や関係機関から得た情報を担当職員がアセスメントし、全職員で話し合いを行い、利用者の様子が具体的にわかる問題提起や解決策が記載された介護計画を作成している。また、「家ではこんな風だった」等の家族からの情報を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々であった事を個別の記録に残し、また、スタッフ同士で共有して、ケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴日以外にも入浴できるよう支援をしたり、家族の状況に応じてスタッフが動き、対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報を基に、地域行事で参加できそうなものには積極的に参加できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけの病院を利用していますが、本人や家族の要望がある時は、家族の協力も得て、希望の病院を受診できるよう支援しています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している他、希望がない場合は、法人内の医療機関への受診を支援している。必要に応じて、認知症専門医や歯科、眼科等の受診を支援している他、受診結果・服薬変化等の情報を家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師が来所され、利用者の体調管理を行っています。それ以外でも24時間相談できるので、適切なケアができるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、スタッフも同席させていただき、情報を共有しています。病院にも定期的に連絡を取り、本人の状況を把握して、早めに対応できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、現時点での意向で構わないので、記入していただいています。途中、変更する事も同時に説明し、変化が見られた際に、再度確認をさせてもらうこともあります。	「重度化及び看取り介護に関する指針」を明示し、「住み慣れた街で、その人らしく最後まで」の方針について、入居時に家族に説明している。ホームでは今までに1例、短期間の自然経過での看取りを経験しており、今後の受け入れのために、研修や環境整備を行っている段階である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが急変時に対応できるように、定期的に勉強会や研修へも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っており、その際は町内の方々や家族の協力を得ており、手順の見直しにもなっています。	年4回、定期的に避難訓練を行い、そのうち1回は運営推進会議を兼ねて19時から実施しており、会議のメンバーや町内の協力員、家族等の協力も得て、役割分担を決めて取り組んでいる。また、災害発生時に備え、食料や水、レトルト食品、反射式ストーブ等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会や個人情報委員会での勉強会参加、研修後の報告で全スタッフが言葉遣いや声かけを見直し、また、指導を行っています。	職員は法人内の研修等で、言葉遣いや声かけ等について学習している。また、年長者を尊ぶ姿勢を基に、丁寧語にこだわらず、ホームでの生活の場で、その時の必要に応じて、臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような言葉かけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にとらわれ過ぎず、本人の意思を尊重し、できるだけ希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望している美容室へ行ったり、本人に着たい物を選んでいただく等し、自己決定していただけるような支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付けを一緒に行っています。食事は本人に確認しながら、体調に合わせて細かくしたり、トロミを付ける等、工夫しています。	法人の栄養士が献立を作成し、食材が配達され、当日の担当が調理をしており、利用者の状況に合わせた食事形態にして提供している。また、利用者の状況に合わせて、茶碗拭きや下膳、米とぎ等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一度に飲みきれない時は、時間や味を変えて提供しています。状態に応じて栄養補助食品を提供する場合があります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行い、必要時には歯科受診をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間にこだわらず、本人の排泄パターンに合わせた支援を行っています。なるべくトイレでの排泄ができるよう支援しています。	9名分の24時間の状況が一目で確認できる排泄確認シートに記載し、事前誘導により、トイレでの排泄を目標に取り組んでいる。また、利用者の動作や排泄状況に合わせて、オムツ使用の見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を確認し、朝食時には個別に食品を提供したり、体操や運動をしていただいています。下剤は主治医と相談し、調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴が難しい方に対しては月・木にこだわらず、本人のタイミングで入れるよう支援しています。	週2回のペースで、利用者の希望を聞きながら入浴を支援している。拒否の強い利用者には声かけや時間を工夫して対応し、安全に入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を聞き、ベッドやソファで休息していただいたり、本人のタイミングで眠ることができるような声かけ、支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに綴じているお薬の情報を共有し、把握しています。内容の変更等があれば、家族にもお知らせしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせたお手伝いが積極的に行われています。なるべく利用者の希望に沿えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運営推進会議で地域の情報を得ることで、新しい行事に取り組んだり、なるべく全利用者が外出できるよう支援しています。	季節が感じられるお花見や祭り、ドライブ等の年間の予定を立てて外出支援に取り組んでいる他、利用者の希望(寿司・ラーメン等)に応じて、個別の外出も支援している。また、家族にも参加を呼びかけ、サクラボ狩りに合流していただく等、協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内で持つ場合は、本人と家族へ説明させていただいています。外出等で使う場合も本人とスタッフで確認し、毎月、出納帳で家族へ確認させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があったり、スタッフが必要と判断した場合、電話をかけさせていただいています。手紙へ書く内容も、本人と相談させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行い、イベント毎の写真を掲示しています。テレビの音や温度、湿度にも注意し、不快に感じられることのないよう配慮しています。	ホールには食卓やソファが置かれ、寛げる空間となっており、利用者は日中はほとんどホールに集まり、過ごされている。また、職員は立てる物音や声、明るさ、温・湿度に配慮している他、クリスマスツリーや冬の飾り付けをして、季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望を聞き、本人の状態を見て席を移動していただいたり、仲の良い人同士が会話できるような空間づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの物を置いたり、本人の好きな花や写真を飾ることで、居心地良く、また安全に過ごせるよう支援しています。	その人らしい居室となるよう、入居前に使用していた物の持ち込みを働きかけており、夫の写真に毎朝ご飯を供える方もいる。また、利用者の意向を聞きながら、写真や作品と一緒に飾り、安心して過ごせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にわかりやすく大きく表示し、なるべく自分で理解できるような環境づくりをしています。		